

令和3年7月26日

市内大学、短期大学、
高等専門学校、及び専門学校
学生の皆様へ

北九州市長 北橋 健治

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのワクチン接種等について

本市では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためワクチン接種を進めており、7月20日時点で市民（満12歳以上）の約25%の方々が2回目の接種を終えています。

ワクチン接種は、発症を予防する高い効果があると言われていた一方で、人によっては発熱、頭痛、倦怠感などの副反応がみられる場合があります。

このため、皆さんの中にも副反応への不安に加え、若年層は重症化しないとして、接種をためらう方もいると思います。

しかしながら、国内では、若年層でも重症化した方がいるほか、家庭内において高齢者や基礎疾患をお持ちの方につつしてしまう事例や、部活動やアルバイトを通じて感染が拡大した事例も数多く報告されています。

これまで本市でも、80名を超える方が感染後に亡くなっており、その何倍もの方々が、今も家族や友人を失った悲しみを抱えていると思われます。新型コロナウイルス感染症の怖さは、自分一人だけの問題に止まらないところです。

このような中、最近では、ワクチン接種に関する、非科学的で、エビデンスに基づかない情報の広がり全国で問題となっています。

新型コロナウイルスのワクチン接種は強制ではありませんが、誤った情報を基に接種を避けている方がいるとすれば、非常に残念でなりません。

このため、市としても、正確な情報の発信に努めるとともに、希望する方全員が、できるだけ早期にワクチン接種できるよう全力で取り組んでいるところです。

本市の新規感染者数は、20歳代以下の若い世代が約半数を占めるようになってきました。学生の皆さんは、自分自身の健康のみならず、家族や友人、社会全体を守るためにも、正確な情報に基づく感染防止対策の徹底とワクチン接種に係る冷静な判断をしていただくようお願いいたします。

【参考：厚生労働省HP「新型コロナワクチンQ&A」より】

Q 1 SNSやニュースでコロナワクチンが危険と取り上げられていて不安です。どの情報を信じたらいいのでしょうか。

A 1 厚生労働省や首相官邸のWEBサイトなど、できるだけ、公的機関からの情報を確認しましょう。

SNSやメディアでは、新型コロナワクチンに関して様々な情報が溢れています。特に、SNSでは発信者が不明、または科学的根拠や信頼のにおける情報源に基づいていない、不正確な情報があり、注意が必要です。

例えば、因果関係が分からないにも関わらず、あたかもワクチンが原因であるような書き方をしている情報もあります。

ワクチンの安全性については、大規模な臨床試験だけでなく、承認後の安全性の監視システムによって常に調べられており、調査や評価の結果は国内外の公的機関から発表されています。

ワクチンの情報に関しては、複数の専門家のチェックを受けた、科学的根拠に基づいた情報発信をしている公的機関や団体などから情報を得ることをおすすめします。

Q 2 これまでに認められている副反応にはどのようなものがありますか。

A 2 現在、日本で接種が進められている新型コロナワクチンでは、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

また、稀な頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関ですぐに治療を行うこととなります。

厚生労働省では、今までに報告された新型コロナワクチンの副反応疑い報告など、新型コロナワクチンの接種後の副反応（副作用）に関する情報を公表しています。

Q 3 新型コロナワクチンの接種が原因でたくさんの方が亡くなっているというのは本当ですか。

A 3 「接種後の死亡」と「接種を原因とする死亡」は全く意味が異なります。米国 CDC の調査結果では、2021 年 6 月時点で「死亡事例と mRNA ワクチン接種には明らかな因果関係がない」と評価しています。日本においてもワクチン接種後の死亡事例が報告されていますが、現時点（2021 年 7 月 19 日）でワクチン接種との因果関係があると判断された事例はありません。接種後の死亡にはワクチン接種と無関係に発生するものを含むにもかかわらず、誤って接種を原因とする死亡として、SNS やビラなどに記載され、拡散されている例がありますのでご注意ください。

Q 4 日本で接種が進められている新型コロナワクチンにはどのような効果（発症予防、持続期間）がありますか。

A 4 日本で接種が行われている新型コロナワクチンは、いずれも、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、また、重症化を予防する効果が期待されています。効果の持続期間や、感染を予防する効果についても、時間の経過や接種者数の増加に伴い、研究が進んでいます。

Q 5 妊娠中・授乳中・妊娠を計画中ですが、ワクチンを接種することができますか。

A 5 妊娠中、授乳中、妊娠を計画中の方も、ワクチンを接種することができます。mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンが妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。また、海外の調査によると、接種を受けた方に流産は増えていません。妊娠後期に新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクが高くなるという報告がありますが、ワクチン接種を受けることで、こうした重症化に備えることができます。

Q 6 mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンはワクチンとして遺伝情報を人体に投与するということで、将来の身体への異変や将来持つ予定の子どもへの影響を懸念しています。

A 6 mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンで注射するmRNAは短期間で分解されていきます。人の遺伝情報（DNA）に組みこまれるものではありません。